

平成 26 年度

第16回武蔵野市地域公共交通活性化協議会の議事概要

(1) 開催概要 (文中：敬称略)

■日 時：平成27(2015)年 3 月 23 日 (月) 10:00～11:30 武蔵野市役所 812会議室

■出席者：[武蔵野市地域公共交通活性化協議会委員] 15名 (欠席 5 名)
[事務局]武蔵野市交通対策課

■配布資料：第15回武蔵野市地域公共交通活性化協議会 次第

- 資料 1 ムーバス 3 号路線「境南西循環」運行間隔の変更について
- 資料 2 ムーバス 3 号路線「境南東循環」実証運行について
- 資料 3 ムーバス 2 号路線「吉祥寺北西循環」実証運行について
- 資料 4 武蔵野市地域公共交通総合連携計画の進捗管理等について
- 資料 5 ムーバス乗客数の推移
- 資料 6 ムーバス I C カード利用状況

(2) 会議の概要

1. 開 会 (事務局)

- 1. 会長挨拶
- 2. 配布資料確認

2. 報告事項

① ムーバス 3 号路線「境南西循環」運行間隔の変更について (事務局)

■1. 概要説明

- ・平成27年 4 月 1 日より 22分→20分間隔運行への変更を実施。
- ・①運転士の増員②時刻表の調整により、変更可能となった。

■2. 意見交換

- ・座長：実際に 4 月 1 日から 20分間隔での運行が決まっており、本来であれば、もう少し早い時期に提案いただきたい内容であったが、これまで協議会でも問題提起、議論しており、早く戻したほうがいいというご意見もあったため、前向きに提案を捉えていきたい。
- ・これまでは、収支の赤字分を市で責任を負うだけであったが、使いやすいサービス品質を確保するために、武蔵野市が投資をしていく、という発想に大きく変わってきている。今回の変更はこれからを考えるうえで大きな一歩であると思う。

② ムーバス 3 号路線「境南東循環」実証運行について（事務局）

■1. 概要説明

- ・平成27年 3 月 1 日より概ね 1 年間、一部ルート変更を実証運行として実施。
- ・迂回ルートについては、実証運行を継続し、利用状況等を踏まえ、一定の結論を出していく。

■2. 意見交換

- ・座長：従前より行っていた山桃通りの迂回ルートだが、乗客数が多くなく、これまでの協議会の中でも今後の運行内容については論点として出ている。
- ・今回、迂回運行を行うと、イトーヨーカ堂の待ち行列の渋滞により、遅延が発生している、という状況の報告があり、3月1日に変更した新しいルートで円滑に運行できているか、という論点に付随して新しい事実発覚した。
- ・委員（小田急バス）：運行状況については、土曜、日曜に関してはイトーヨーカ堂の渋滞の影響がこの路線だけでなく、発生している。日中時間帯の延長であるため、渋滞の件を含めて、今後ルートや時間帯について協議していきたい。
- ・座長：ショッピングセンターは土曜、日曜に混雑が集中する。どのような法則で特に混雑するのか、平日でも時間帯によって同じような状況が起こり得るのか、状況を掴んでおくと、迂回ルートを評価する際に使えるのではないかと思う。
- ・事務局：補足だが、3月2日(月)の運行状況も小田急バスより提供いただいたが、ほぼ定刻通りの運行であり、変更初日、2日目の運行状況については把握している。今後も実績等を確認し、実証運行について検討していきたい。
- ・座長：運行状況の確認については、特定の日にあらわれてくる可能性があるため、ヨーカ堂の場合は、ハッピーデーで8のつく日が問題になるかもしれないので、データを押さえておく必要があるかもしれない。
- ・委員（全国自動車交通労働組合総連合東京地方連合会）：現在工事中の調布保谷線は渋滞が多く、時間がかかっていると思うが大丈夫か？工事完了によって渋滞は解消されるのか？
- ・事務局：東京都施工の都市計画道路であり、もう少し北側の井の頭通りから境南通り(市道73号線)までが、4車線で交通解放された。まだ工事については時間がかかると聞いている。
- ・委員（東京都北多摩南部建設事務所）：現在2車線で開放しているが、4車線になれば、交通渋滞は解消していくと考えている。
- ・座長：これまでの実証運行と異なり、走行が円滑にいつているのか、というところに重点を置き、評価していく必要がある。

③ ムーバス 2 号路線「吉祥寺北西循環」実証運行について（事務局）

■1. 概要説明

- ・これまでの検討経過説明。意見交換会、運行説明会でのご意見を発表。
- ・実証運行計画を説明。（①夜間運行時間帯の延長、②運行間隔の変更）
- ・平成27年 4 月 1 日（水）より概ね 1 年間の実証運行を開始。

- ・19時台以降を減便する等、利用状況を反映した時刻表としているため、ハレーションが起きるのではないかと懸念している。
- ・そのため、実際に現場を確認、また乗車し利用状況を把握することを考えている。次回の活性化協議会でまたご報告させていただきたい。

■2. 意見交換

- ・委員（全国自動車交通労働組合総連合東京地方連合会）：夜の時間帯については、あった方がいいとは思いますが、乗客数が少ないと実際にまちを走っていて感じる。
- ・これまでバスの乗務員不足等の問題があるとのことのご意見も出ているので、利用状況等を踏まえて考える必要があると思う。
- ・事務局：今回の時間帯延長については、乗客数の動向を考慮したダイヤになっているが、一方で大正通り沿線にお住まいの方から、18時、19時のバスはガラガラなことも結構ある、というご意見も頂いている。
- ・乗客数等のデータについてはまた詳しくご報告させていただく。
- ・座長：労働環境も考えなければならないが、ムーバス、路線バス、タクシーの役割分担についても考えていく必要がある。
- ・利用者の要望と沿線住民の方の思いは表裏一体であると思う。その辺りを検証指標でつかめるのかどうか重点的に確認していかなければならないと思う。
- ・延長便の利用者数の確認も必要だが、実際に乗ってみて、利用者の動きや利用者層等も丹念に見ていかなければならないと思う。
- ・平日と土日祝でダイヤが違うのが2号路線の特徴であると思う。
- ・平日のパターンダイヤ化、時間帯延長、休日の運行間隔変更、それぞれで乗客の利用がどのようになっているかを見ていくのが必要。
- ・今回の変更点を各項目で評価していくことが必要だろう。
- ・委員（関東バス労組）：今回の時間帯延長に伴い、運転手の人員増にはせずに対応は出来たが、一人当たりの運転時間は延長になる。
- ・現在ムーバスは時給制の運転手が運行している。ムーバス運転手の賃金体系の在り方についても見直しを検討していきたい。
- ・あまり市に負担をかけないように、関東バスとして取り組み、負担している部分もある。しかし、バス事業者としては利益を上げていく必要がある。
- ・存続のために、ムーバス事業のあり方についても議論していく必要があると思う。
- ・座長：ムーバスはコミュニティバスという概念がなかったときに、丹念に議論されてできたものである。現在は制度や労働環境も変化してきている。
- ・事業者単独では、ここまでのサービスは提供できないが、市が支援することによって出来ることがある。
- ・乗務員不足によって、これまで人件費を抑えることができていたが、現状では難しくなってきた。一方、市民目線で考えると利便性が高く、きめ細やかなサービス、というムーバスが愛され、使われてきたのも事実。この両方を続けていくには、新たなパートナーシップを築くことが必要になってくると思う。

④ 武蔵野市地域公共交通総合連携計画の進捗管理等について（事務局）

■1. 概要説明

- ・来年度以降『武蔵野市地域公共交通総合連携計画』の中間評価を実施していく。
- ・あわせて、『地域公共交通網形成計画』への移行についても検討していく。
- ・『第3次武蔵野市市民交通計画』に内包されている『第9次交通安全計画』の改訂を平成27年度中に実施していく。
- ・平成27年11月、ムーバスが運行開始から20周年を迎える。これをムーバスを含めた公共交通のあり方を考えるきっかけにしたい。
- ・『交通安全計画』については、国、都も同様に5年毎の改訂である。
- ・ムーバスは地域公共交通に育てていただいたと感じている。そこで、ムーバスの20周年という機会を利用して、地域公共交通の底上げ、次のステップに行くための取り組みが何かできないかと考えている。

■2. 意見交換

- ・座長：11月20日に法改正があり、地域公共交通網形成計画が法定計画となっている。武蔵野市の連携計画は法定計画ではないが、活性化協議会という法定協議会が残っているので、直ちに問題が発生する、というものではない。
- ・ムーバス20周年については、利用促進のための楽しそうなイベントは全国的に実施されている。
- ・ムーバスの運行開始時は、相当な議論、綿密な合意形成があったと思うが、なかなかそれを振り返る機会がなかったと思う。
- ・ムーバスは今後なにを目指していくのか、というところは議論をしていく必要があるので、フォーラム等の実施も良いかもしれない。
- ・コミュニティバスに対して骨太な議論ができるのは全国で武蔵野市だけであると思う。連携計画の中間評価にも重要なので、普段から議論をしていく必要がある。
- ・委員（全国自動車交通労働組合総連合東京地方連合会）：以前乗車いただいたお客さんに、ムーバスは今や通勤等に使われていて、本来の目的を忘れてしまっているのではないか、という話をされていた。
- ・高齢者に喜んでいただけるような催しで高齢者無料デー等を作ればインパクトもあるし、PRに繋がるのではないかと思う。
- ・委員（健康福祉部長）：福祉的観点からも、ムーバスの意義を見つめ直すことは必要であると思う。ムーバス20周年は、もう一度原点を見直す大きなポイント、またムーバスの背景や目的を若い世代にも伝承していくきっかけにもなるのではないかと思う。
- ・地域公共交通の観点だけでなく、ムーバスは高齢者の外出支援をすることによって、介護予防や健康寿命の延伸に貢献している。障害者のユニバーサルデザイン、バリアフリー等の観点も含めて、この事業を見直す必要があるのではないかと思う。
- ・委員（老人クラブ連合会）：高齢者といっても元気な高齢者が増えてきている。シルバーパスを持っていても、時間通りにくるという理由からムーバスを使う人がいる。

- ・この協議会は、実際に参加してみて、総合的な協議会であると感じている。
- ・**座長**：運行開始までの検討経過や合意形成等を多くの人が知らない。ただの安く可愛いバスという認識では、持続していくことができない。
- ・平成7年の運行開始当時から福祉という概念もまちづくり、子育てにまで拡大している。
- ・ムーバスってなんだろう、という骨太な議論をすることで、連携計画の中間評価にも大きく貢献してくると思う。
- ・事務局：事業には予算が必要であるため、シンポジウムをとという話で概算要求をしたが、シンポジウムではなく、更なる利用促進を図るように、という指示事項となっているので、ご理解いただきたい。
- ・ただ、ムーバス20周年を迎えるにあたり、骨太な議論はしていきたい。
- ・ムーバスは生活道路を運行しているため、立っているお客さんから家の中が覗き込まれてしまう、というご意見が2号路線の意見交換会で出たので窓ガラスヘシートの貼付を検討している。外は見えないが、圧迫感があり、どこを走っているのかわからないという懸念もある。
- ・路線バスや他市のコミュニティバスでフィルムを貼付していることはあるのか？
⇒**委員（関東バス）**：ご意見としてないことはないが、実際に目隠しをしているということはない。
⇒**委員（西武バス）**：地域柄もあると思うが、そのような苦情を受けたことはない。事業者としては圧迫感もあるのでフィルムの貼付は行わないと思う。ノンステップバスを導入した際に、短いスカートだと見えてしまう、とのことで窓の下の方に黒のフィルムを貼付したことはある。
- ・**座長**：モノで解決するのは安い100円バスに成り下がってしまうという気がする。目隠しをするということは、お客さんを信じていないということにもなるので、得策ではない。
- ・利用促進を図るという指示があったとのことだが、骨太な議論が一番大事である。それによって施策を推進しやすくなる。このメンバーの中から発信していきながら、公開で議論していくことが利用促進に繋がると思う。
- ・協議会では時間も限られているので、じっくり時間をかけながら、ぎっくばらんに話せる場を来年度作っていただきたい。

6. 閉 会